

～目次～

【1】年初の挨拶

理事長 今井雅子

【2】加盟団体の活動

- ・世田谷高次脳機能障害連絡協議会
- ・みなと高次脳
- ・就労移行支援事業 レジリエンス
- ・サークルエコー
- ・高次脳機能障害者と家族の会

【3】行政、他団体の活動

- ・神奈川工科大学 小川喜道先生主催 ZOOM 第1回と第2回を拝聴して
- ・R5 年度港区高次脳機能障害理解促進事業 研修会
- ・令和5年度 第2回 杉並区高次脳機能障害者支援セミナー
- ・区西南部高次脳機能障害者普及事業「専門的リハビリテーションの充実」事業 研修会
- ・令和5年度第3回北多摩南部医療圏研修会
- ・当事者たちの活動団体<明日に希望を灯す動画作成委員会>

【4】新コーナー “TKK 加盟事業所訪問報告”

- ・第4回 一般法人 障がい者・高齢者じりつ支援機構(蒲田)
- ・第5回 NPO 法人みんなのセンターおむすび(板橋区)

— 各記事の前の ●は活動報告、○は今後の予定 表題の< >はシリーズ開催です —

【1】年初の挨拶

* *

今年の幕開けは、元旦の能登半島地震、翌日は救援物資を運ぼうとしていた海上保安庁の飛行機と日航機の衝突事故と、驚きと悲しみで胸の痛くなるようなことが起きました。未だに余震が続き、捜索活動や復興作業が懸命に行われていますが、まだまだ日常生活が戻ってこない様子に、どんなに辛く悲しいことだろう、高次脳機能障害のある方々はどうしていらっしやるのだろうかと思いを馳せています。

被害に遭われた方々には心からご冥福とお見舞いを申し上げます。そして少しでも早い復興をお祈りしております。

それでも時は経って、気がつけば2月もあとわずか。やはり温暖化で春の訪れも早いようです。暖かな日差し、梅や早咲きの桜など、自然はどんどん先に走っている感じがします。

そして今、2023年度の締めくくりの時でもあります。活動を振り返り、次なる活動へと繋げていく大切なこの時、今一度当会の存在意味を問い直し、何を求められ、何をしなければならぬかをしっかりと考えて前進していきたいと思っています。

どうぞ今年もよろしくお願いいたします。

【2】加盟団体等の活動

* *

世田谷高次脳機能障害連絡協議会

●<令和5年度 第2回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議・シンポジウム>(Web 会議) 2月16日

====シンポジウムのテーマは「地域における高次脳機能障害者の移動に関する支援について」というもの。世田谷区の高次脳機能障害者ガイドヘルパーの創設に今井がかかわったことからの講師依頼でした。実はこのTKKの加盟団体の中には、都心のように交通機関を選んだり大して待たずに公共交通を利用したりできないところもあり、かつて「今井さんの所のようなことは出来ませんよ。」と言われたことがあります。また地方に講演に行った時には、当事者のご主人が運転をされていて、横で奥さんが指示出しをしているという車に乗ったこともあります。「この辺りは一家に一台、ではなく人数分の車が必要なんですよ。」という話も聞きました。果たして全国レベルの会議で、世田谷の話をして良いのかと何度か問い直しましたが、参考になるからとのことでした。

世田谷ではガイドヘルパーになるためには養成講座を受講して資格を得たヘルパーが従事できます。その講座の一つに「当事者・支援者から」というコマがあり、そこにも関わっています。日々ヘルパーとして働いている者にとってはハードルは高いのですが、高次脳機能障害をしっかりと学んでいただくと、移動支援だけでなく、日常のサービスにも十分生かせる学びです。

通所や通勤が一人で出来るようになるための工夫やリスク管理などをお話ししながら、「終了できないケース」についても話しました。最初のシンポジスト藤田佳男氏(千葉県立保健医療大学健康科学部リハビリテーション学科教授)のお話の中に「われわれは対象者の移動についても自立と自律を考える必要がある。自立(Independence)と自律(Autonomy)」という話があり、「終了できないケース」は「サービスを使って、自分の行きたいところに行くという自己決定をする」という「自律」なんだということを確信できました。

移動支援の話だけでも、かなりの情報量と問題提起があり、シンポジストではありますが多くを学ばせていただきました。

====世田谷高次脳機能障害連絡協議会代表 今井雅子

みなと高次脳

●「新たな団体との出会いを新しい出発に」今年度をふり返っての報告

====昨年 11 月新しい団体との出会いがありました。団体名は「なんぼこーじー」とう名称です。私達の会員の男性が千葉県鴨川市亀田リハビリテーション病院の高次脳機能障害の家族会の集まりに寄ったことがきっかけで当会で連絡を取り合うようになり、11 月初めの集いにご招待の連絡が病院長から届きました。希望者を募り、JR 特急わかしおで東京駅から 2 時間の安房鴨川駅へ、そこからタクシーに乗って到着した会場は亀田総合病院グループの亀田医療大学。今日は校内で開催される「リハケア文化祭」に地元の家族会の皆さんも参加されるとのこと。会場の受付で記帳をすると「みなと高次脳さんですね。お待ちしております」と歓迎を受け、到着早々嬉しい気分、私達もリハとケアの情報のある文化祭会場を回って昼食の会場に行くと、そこに家族会の方々が到着。昼食を食べながら互いに自己紹介、私達は固い感じの自己紹介だったのに比べ、鴨川の家族会「なんぼこーじー」の方は「東京から移住希望の人が見学に来るって？」と冗談まじり、「私は以前東京に住んでました」と言う方がいると、次の方も「私も」「私も」と住んでいなかった方も初めの言葉は東京から始まり大笑いに、本当に楽しく進めてくださりリラックスしました。更にお弁当は色々な種類の魚が入っている流石豪華なお弁当で美味しくご馳走になりました。

それぞれ家族会の課題はあるもので、「なんぼこーじー」さんは会員数が増えないとのこと、地域の住民の意識の違いでしょうか。互いの会の良いところ、改善点なども今後も交流して、意見交換しあって行きたいと思いました。

帰りに校内の庭を歩いている時、私達の会員の一人が「音がしないね」と言いました。それは港区の交通量の多い都心に住んでいて慣れてしまった雑音が聞こえないということでした。当日は穏やかな日差しの気持ちの良い日だったこともあったので、行って良かった！また行きたい！ということになりました。

なんぼこーじー ホームページ：<http://www.nanbou-kouzi.com/>

====みなと高次脳 高井玲子

就労移行支援事業所 レジリエンス

●月刊ケアマネジメント 2024 年 2 月号に利用者の方の記事が掲載されました

「障害と私の人生」というページで、高次脳機能障害の当事者の方が自分自身のことについて書いた文章になります。同じ障害を持つ方やその家族の方が読むと共感できたり、勇気づけられたりする内容になっています。よかったらご覧ください。

掲載紹介

[月刊ケアマネジメント 2024 年 2 月号に利用者の方の記事が掲載されました \(cswjapon.wixsite.com\)](http://cswjapon.wixsite.com)

サークルエコー

○「みらくル TV 高次脳機能障害特番」について

====しつこいくらいにメールリストにご案内しているので、みなさんご存知かと思いますが、毎月第二日曜日 14:30-16:00 に「みらくル TV 高次脳機能障害特番」を開催しています。

そもそも「みらくル TV」とは……。

ウェブサイト、Zoom、YouTube を連動した、視聴者参加型の完全双方向オンラインテレビ局です。「みらくル」という名称は、未来、希望、連携を表わしています。出演者もスタッフもすべてがボランティアで、それぞれが献身的にテレビ局を支えています。(みらくル TV HP より)

高次脳機能障害特番は、そうしたメディアの一つの番組です。

高次脳機能障害当事者、ご家族、支援者ならびに関係者のための「学びの場」とご理解いただけたらと思います。

ゲストには、毎月、いろいろな分野・現場の第一線でご活躍の方々をお呼びしております。ゲストの方の具体的な活動を聞きながら、少しでもみなさまの生活の質(QOL)の向上につながれば幸いです。

また、当日ご視聴いただけなかった方、後日開催の様子を YouTube アップしておりますのでご覧ください。

3月以降の番組(予定;タイトルはすべて仮称)

3/10 「明日に希望を灯す動画作成委員会」の活動について

4/14 * 山口加代子先生(臨床心理士、NPO 法人日本高次脳機能障害友の会顧問)

5/12 * 坪井健さん(東京ヒューマンライブラリー代表)

6/9 * 明日に希望を灯す動画作成委員会

7/14 * 言葉をつむぐ会(失語症当事者グループ) 調整中

その他、ご希望ありましたら、サークルエコー 玉木(tama_and_uzura@yahoo.co.jp)までお寄せください。

====サークルエコー代表 玉木和彦

高次脳機能障害者と家族の会

〇3月交流会 ～プラネタリウム&懇談会～

日 時:3月17日(日)13:00～16:30

集 合:13:00 新宿コズミックセンター(新宿区大久保 3-1-2)8階プラネタリウム

13:30～14:20 プラネタリウム観覧 星空散歩 ～春～

見上げてみよう! 未来の星空 ～10 万年後にタイムスリップ～

15:00 頃～16:30 懇親会(大久保地域センター)

参加費:観覧料一人 300 円

◇申込み:参加者氏名、連絡先を添えて FAX か「メール」で(3月20日まで)

FAX:03-3200-8970(太田)メール:koujinou_kazokukai@yahoo.co.jp

詳しくは下記から

<http://kouji-kazokukai.org/exchange/20240204/1272.html>

【3】行政、他団体の活動

* *

●<神奈川工科大学 小川喜道先生主催 ZOOM 第1回鼎談と第2回対談>を拝聴して

====小川先生の講習会は、温かい空気の流れる場を提供していただきます。

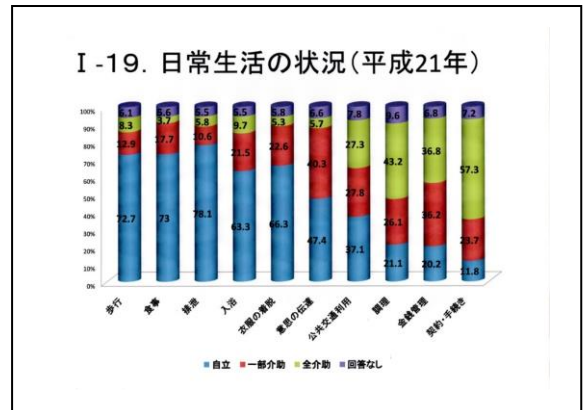
1)「コミュニケーション」支援は質的側面の向上が大事

10/21 のアンケートに「教える側のリハ職に望むこととして、わかりやすい言葉、会話力、伝え方に課題がある。専門職にはコミュニケーションの研修会が必要」とありました。さらに「就労した当事者でもコミュニケーションに課題のある方が多々見受けられます。」ともあり、ここで教える側と受ける側の両者それぞれに課題があることが読み取れました。確かに、コミュニケーションとは、心理・環境調整を含んだ共同作業です。

実は、小川先生の ZOOM に参加する前にコミュニケーションに関わる過去の考察とグラフを見る機会がありました。

・「H16 年 11 月発行の脳外傷後遺症実態調査報告書(東京医科歯科大学難治研究所)に、「コミュニケーションに係る項目である理解、表出、記憶、問題解決、注意力では援助してほしい割合が高く、不自由さを抱えている。」と記されています。

・右は H21 年の「高次脳機能障害者の生活実態調査と支援拠点機関の利用状況調査の結果」(日本脳外傷友の会) I-19 の表です。「意思の伝達」に課題のある方が 50%でした。この調査の総括を担当された小川先生は「意思の伝達・公共交通機関利用の自立度が多少低下し…」とまとめられていました。

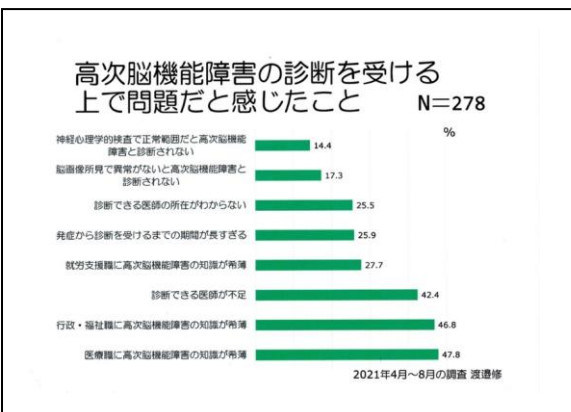


これら過去のグラフと 10/21 のアンケートを読んだ私の印象は

「えっ、高次脳機能障害が知られるようになってから、25 年も経つのに、高次脳機能障害のコミュニケーション支援(失語症を含むと思いますが)は改善されてないんじゃないの?」でした。ちょっとがっかりして小川先生に伺いました。

先生から「当時に比べたら各県に拠点機関も置かれ、支援コーディネーターも大きな数字になっています。物理的な数字は増えてはいるとしても、質的側面からしたらこれからの大事」と伺い、なるほどと腑に落ちました。

2) 高次脳機能障害者支援法(仮称)の成立を!!



左は 2/3 の対談で、山口加代子先生が示された

「高次脳機能障害の診断を受ける上で問題だと感じたこと」のグラフです。すべてが問題ですが、下から上に向かって 3 本の棒グラフは、特にそれぞれ

- ・医療職に高次脳機能障害の知識が希薄は 47.8%
- ・行政・福祉職に高次脳機能障害の知識が希薄は 46.8%
- ・診断できる医師が不足しているが 42.4%

2021 年の段階で上記 3 つの項目はすべて 50%に迫っています。

当事者、家族としましては、この先どうなるのか心配です。この障害は、医療機関において確かな診断があって初めて適切な対応がなされ、

その上で回復に向かうものだからです。アンケートには、「支援法の成立を願う。」言葉が多く見られました。

3) リハビリと社会参加は並行で行う(橋とも子著「トラウマティックブレイン」より)

高次脳の方全ての方に当てはまるかどうかは分かりませんが、脳の損傷が浅くても深くとも、長い年月にわたり、人と関われる居場所があり、障害を理解しようとする支援者に恵まれることで、回復が見られた当事者たちがいます。リハビリと並行して社会参加や社会就労を行ったからこそその成果だと思います。

====TKK 理事 伊地山敏

○<R5 年度 港区 高次脳機能障害理解促進事業 研修会>

高次脳機能障害の職業リハビリテーション～入院時から就労を目指して～

講師: 露木拓将(つゆきたくまさ)氏 神奈川リハビリテーション病院 職能科/作業療法士

「症状はある、でも大丈夫目指そう! よりよく生活していく為のヒントを経験や事例を通して分かりやすく説明して頂きます。

日 時: 3月1日(金) 18:30~20:30

会 場: 港区立障害保健福祉センター 6階 多目的体育室

参加費無料

会場ホームページ

<https://www.city.minato.tokyo.jp/kenko/fukushi/shogaisha/madoguchi/hokenfukushi.html>

◇申込み方法

〆 切 : ~2月29日(木) 先着順 100名

電 話 : みなとコール 03-5472-3710(9:00~17:00)

FAX : 03-5439-2514

メール : minato-chi@yuai.or.jp

①3/1(金)高次脳機能障害研修会、②氏名、③連絡先、④所属先 を記載

・当日はマスク・消毒にご協力ください。

・一時保育あり(定員2名) 〆切 2月22日(木)まで

○<令和5年度 第2回 杉並区高次脳機能障害者支援セミナー >

テーマ:知ってほしい 失語症

日 時:令和6年3月2日(土) 14:00~16:00

場 所:杉並区役所 中棟6階 第4会議室 (杉並区阿佐谷南1-15-1)

定 員:50名 区内在住・在勤の方

内 容:第1部 ミニ講座(14:10~14:30) 失語症のある方へのコミュニケーション支援について

講師:杉並区障害者生活支援課地域生活支援担当 言語聴覚士

第2部 講演会(14:30~15:30) ある日突然、失語症に—当事者/家族/言語聴覚士としての12年—

講 師:加藤俊樹氏、米谷瑞恵氏

締 切:2/27(火)

◇申込方法:電 話:03-3332-1817(平日:午前9時~午後5時まで)

メール:s-sien@city.suginami.lg.jp

件名「第2回高次脳機能障害者支援セミナー申込」とし、①参加者氏名、②住所、③電話番号を記載

○<区西南部高次脳機能障害者普及事業「専門的リハビリテーションの充実」事業 研修会> web開催

やさしくわかる介護者向けの高次脳機能障害 ~失語症の言語療法と支援~

日 時:3月6日(水曜日) 19時00分~20時15分頃

詳細は右から [区西南部高次脳機能障害支援センター|玉川病院 http://tm-seinanbu.com](http://tm-seinanbu.com)

参加は下記 URL よりお申し込みください。

URL <https://qr.paps.jp/0VSZU>

ご登録いただくと ZOOM より登録いただいたメールアドレスへウェブナーの URL を返送させていただきます。

締 切:2月26日

◇問い合わせ先: 日産厚生会玉川病院 リハビリテーション科 千葉 北村

電話番号 03-3700-1151 E-mail seinanbu-kouji@tamagawa-hosp.j

○<令和5年度第3回北多摩南部医療圏研修会> 令和5年度東京都高次脳機能障害支援普及事業 Web 開催

主 催:東京慈恵会医科大学附属第三病院リハビリテーション

日 時:3月10日(日) 13:00~15:40

講演1 知る・気づくから未来を育む ~すてつぷなまでの取り組み

特定非営利活動法人高次脳機能障害友の会ナナ クラブハウスすてつぷな 統括所長 野々垣睦美氏

講演2 就労移行支援の制度・弊社サービスの内容や実績に関しまして

LITALICO ワークス三鷹 三鷹センター センター長 丹羽 康治氏

症例検討 運転中に脳卒中を発症した 事例

東京慈恵会医科大学附属第三病院 リハビリテーション科 小野 航暉氏

◇お申し込み:URL から <https://forms.gle/RHt4AXb5U3fLUoS88>

後日、Zoom アドレスをお送りいたします。

参加費:無料 定員:100名

詳しくは下記から

http://www.brain-tkk.com/index/show_board.php?boardAct=view&readNum=241

○当事者たちの活動団体<明日に希望を灯す動画作成委員会 ZOOM 案内>

高次脳機能障害を発症された方とご家族の不安に、生活復帰、社会復帰ができた当事者の記録を動画で残すピアサポート活動をしています。昨年、マニフェスト大賞受賞しました(メルマガ 11/25 発行 Vol.61 にてお知らせ済み)。社会貢献になる活動です。

<ZOOM 案内>

『内容は4回の放送で、各テーマは「活動の成り立ちとして/ピアサポーターのDX化、どこに向かうのか」「参加することで当事者が恵まれること」「聞いた当事者と家族に広がる安心とメリット」「ピアサポートをDX化することの社会的メリット」などについて発起人の当事者のひとりより、お話しします。』

第1回は、『明日に希望を灯す動画作成委員会の活動が、なぜ始まったのか? どこに向かうのか?』です。

ぜひ、ご参加ください。

・公開日時:3月10日 14時30分~16時00分

・アクセス方法:みらくル TV:3/4-3/10 番組表<https://miracletv.site/?page_id=12592> 表示ボタン【「みらくル TV」のご視聴はこちら】をクリック ※パスワード:39

・関連ホームページ

みらくル TV<<https://miracletv.site/>>

明日に希望を灯す動画作成委員会ホームページ<<https://asu2kibouwo.com/>>

第4回 一般社団法人 障がい者・高齢者じりつ支援機構(蒲田)

昨年11月中旬に訪問し、じりつ支援機構幹部の皆様にお会いしお話を伺いました。

[障がい者・高齢者じりつ支援機構プロフィール]

2014年機構を設立、同年末に「就労移行支援事業所でらいとわーく」、2015年「計画支援相談事業所でらいとさぽーと」、2016年「放課後等ディサービスでらいとわーくジュニア-かまたアフタースクール」、2018年「就労定着支援事業所でらいとわーく」、2019年「自立生活支援事業」と、支援の幅を次々と広げ今日に至る。

HP: <https://www.jiritsu-shien.org/>



[じりつ支援機構設立の経緯、特徴、信条]

・林尻代表が民間企業で転職支援の仕事をしていた時、アドバイス、支援によってその方が大きく変わり、環境に適応し

ながら新たな能力を発揮することを体験した。このことは障害のある方にとって、より必要なことではないかとの思いに至り、障害者支援の事業を立ち上げた。

・就労移行支援事業所でらいとわーくは精神障害の方を中心に支援しているが、高次脳機能障害の方も積極的に受け入れており、この障害に対応するノウハウを蓄積している。

でらいとわーくではPCの習得など一般的な就労のためのスキルの習得に加え、公文式学習を仕事と見立てた使い方の実践、WRAP(元気回復行動プラン)、DiSC(自己分析手法)等多彩なプログラムで利用者を支援している。

・2年の就労移行支援によって就労された方のアフターケア、定着支援に取り組んでいる。しかしそれ以降も支援を必要とする方のために就労定着支援事業(ジョブコーチ)の認可を受け、シームレスに支援できることが大きな特徴です。企業・就労された方双方にアドバイスすることは、非常に有意義で有効な仕事です。



左から、三井代表理事、林尻代表理事、西濱理事、佐藤主任支援者

でらいとわーくでは「我が信条」と題した宣言を名刺裏面に刷り込み、クライアントを理解し的確に支援することを信条とするというグループの理念を、組織内外にアピールし実践しています。

以上

★大田区は高次脳機能障害者の地域資源マップを整備しており、でらいとわーくも関係機関として掲載されています。

第5 回 NPO 法人みんなのセンターおむすび(板橋区)

昨年 12 月、デイサービスおむすび(板橋区仲宿)と、ときわの杜(板橋区常盤台)、2 つの事業所を訪問しました。

[みんなのセンターおむすびのプロフィール] HP: <http://omusubi.or.jp/>

2002 年板橋区に中途障がい者の日中の場づくりの運動を提案、高次脳機能障がい者のゆたかな地域生活 社会参加を目指し、2007 年に NPO 法人みんなのセンターおむすびを設立、2008 年高次脳機能障がいの方の日中活動、リハビリを目指した地域活動支援センター「デイサービスおむすび」、2012 年 就労継続支援 B 型「ときわの杜」を開所。それと並行して板橋区でカウンセリング、当事者会/家族会の設立・運営支援の活動に当たっている。

また板橋区内の高次脳機能障がい者の支援拡充のための連絡会や行政内組織の部会立ち上げ、運営を推進、高次脳機能障がいフォーラム開催、高次脳機能障がいガイドブック作成等、板橋区の支援拡充に多面的に取り組んでいる。

[地域活動支援センター デイサービスおむすび 活動紹介]



「デイサービスおむすび」の小林所長

板橋区独自の制度、地域活動支援センターⅡ型 B というカテゴリーで区民の障がい者の日中活動、リハビリまた次のステップを目指す方々、20 数名が利用されている。利用者は 30~80 歳と幅広い年齢層、7・8 割が高次脳機能障害の方で、特に高齢者向けのデイサービスになじめない方にとって有難い場所である。多様な利用者のための活動、プログラムが用意されていて、楽しく過ごす工夫がされている。商店街に位置している地の利を生かし、地元で溶け込んだ活動をされている。

ご自分で通所が難しい方のために送迎サービスもある。

[就労継続支援 B 型 ときわの杜 活動紹介]

高次脳機能障がいの方を中心に仕事を通して地域社会の一員として充実した生活をおくることを目的に、板橋区内外十数名の方が利用されている。作業をしながら地域生活をおくる、また作業を通じ仕事の力を付け就労に結び付けることを目指している。作業としては出版、印刷物の制作、車両関係の部品組み立て、切手張り、折り・封入など多種多様な手仕事で、より多くの工賃を目指すことを目標にしている。

「むすび」をテーマに町会、商店街等の地域活動を推進し、地域の方々と交流し、その成果もありたくさんのボランティアの方が活動に参画されている。



「ときわの杜」の平田所長

===== 報告者 TKK 理事 矢野 久喜